

＋ 県立病院の助産師たち ～安心して出産するための支援～



県立病院の周産期医療体制

県立病院は、妊産婦や新生児に対する医療体制を充実し、安心して産み育てられる環境づくりを目指すことを目的に、「地域周産期母子医療センター」として7病院、「周産期母子医療センター協力病院」として1病院が指定されています。

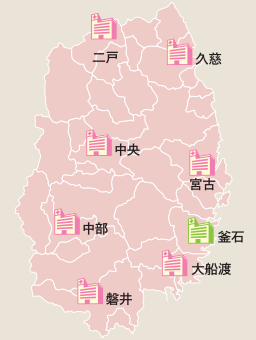


地域周産期 母子医療センター

- 中央病院
- 大船渡病院
- 宮古病院
- 磐井病院
- 久慈病院
- 中部病院
- 二戸病院

周産期 母子医療センター 協力病院

- 釜石病院



NEWS

磐井病院で BFH(赤ちゃんにやさしい病院)に認証されました!

磐井病院では、助産師たちの活躍により、ユニセフとWHOが認定しているBFH「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital)」に認定されました。



助産師外来

助産師外来では、助産師が妊産婦の健康診査や保健指導を行っています。妊婦健診は、ゆったりした雰囲気の中で不安な事などを伺いながら、妊婦が主体となり満足した出産が出来るようサポートしています。お腹の中の赤ちゃんの成長をお母さん方と一緒に喜び分かち合う時間は、助産師としてのやりがいを感じます。

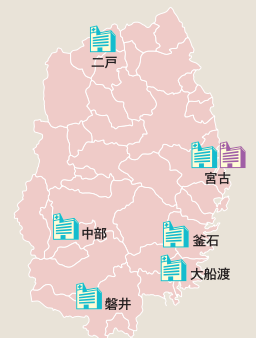
産後健診では、退院後の育児に関する不安の軽減や、母乳育児が継続できるようケアを行っており、お母さん方の自信に繋がり好評を得ています。

助産師外来を行っている県立病院

- 大船渡病院
- 釜石病院
- 宮古病院
- 磐井病院
- 中部病院
- 二戸病院

院内助産を行っている県立病院

- 宮古病院

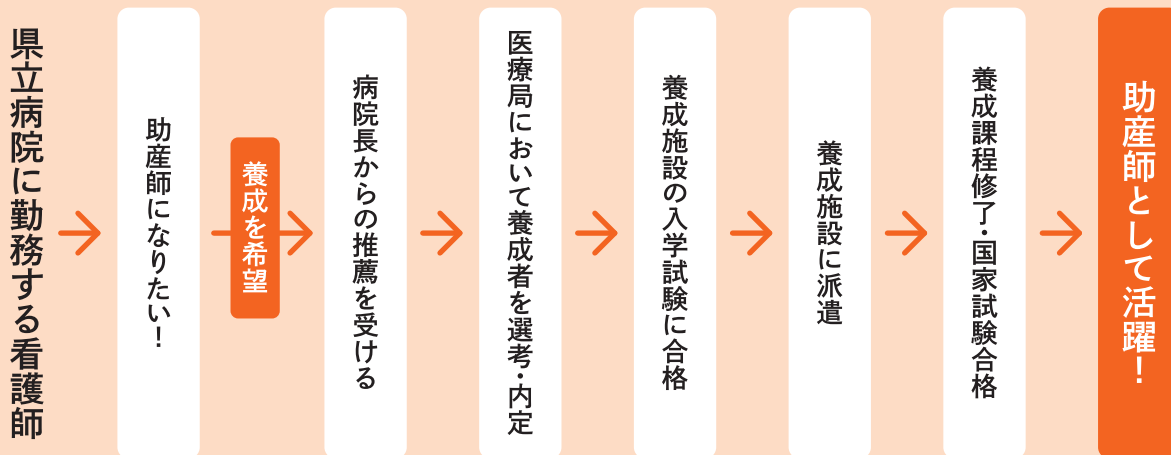




助産師の内部養成について

県立病院で働く看護師のなかで、助産師として働く意欲のある職員を対象に内部養成を実施しています。
 助産師免許の取得に要する費用(養成施設の学費等)や在学中の給与についてはすべて医療局において支援します。
 ※助産師免許取得後の配属先は県北・沿岸の病院になります。

～ 助産師の内部養成の流れ～



VOICE



大船渡病院
 看護師兼助産師

佐々木 日華莉

Q1 助産師を目指したきっかけを教えてください

小児看護実習で先天性疾患をもつ乳児とその母親に関わったことです。妊娠期から継続的に支援をした助産師の存在が母親の支えとなり親子関係の基盤となっていたことに気づき、私も女性が一人で悩まず楽しく育児ができるようなサポートができる助産師になりたいと考えようになりました。母性看護実習でも、初めて立ち会ったお産で産婦の腰をさすりながら付き添ったり、産後に保健指導を行い喜んでもらった達成感を得て憧れが強くなりました。看護師として就職した後も、母児にとって必要なケアを他職種で考えながらいきいきと働く先輩助産師の姿を見て、助産師になろうと決めました。

Q2 内部養成を利用し、助産師資格取得までの流れを教えてください

入学試験に合格した後は、出張というかたちで1年間勉強に励み、国家試験に合格すると助産師資格を得ることができます。病棟の先輩助産師の助言やフォローを得ながら、日々勉強に励みました。助産師資格を得てからは第一希望の大船渡病院へ転勤・所属することができました。

Q3 助産師を目指す方へメッセージをお願いします

この制度は、仕事を辞めずに職員として在学でき、金銭的な支援も受けられるところが特に魅力だと思います。何より、自分のやりたいことを積極的に支援してもらえるのでモチベーションが上がります。助産師になってからは分娩や妊婦健診、育児指導など母児への支援だけでなく、婦人科の疾患を持つ患者さんや性教育での児童・生徒、学生と関わるなど幅広い年齢の女性と関わることができ、やりがいを感じています。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。